

Web会議接続(M) Teams接続設定マニュアル

Microsoft Teamsモジュール Version **2.0.0**以下に対応



2022年10月1日
NTTビズリンク株式会社

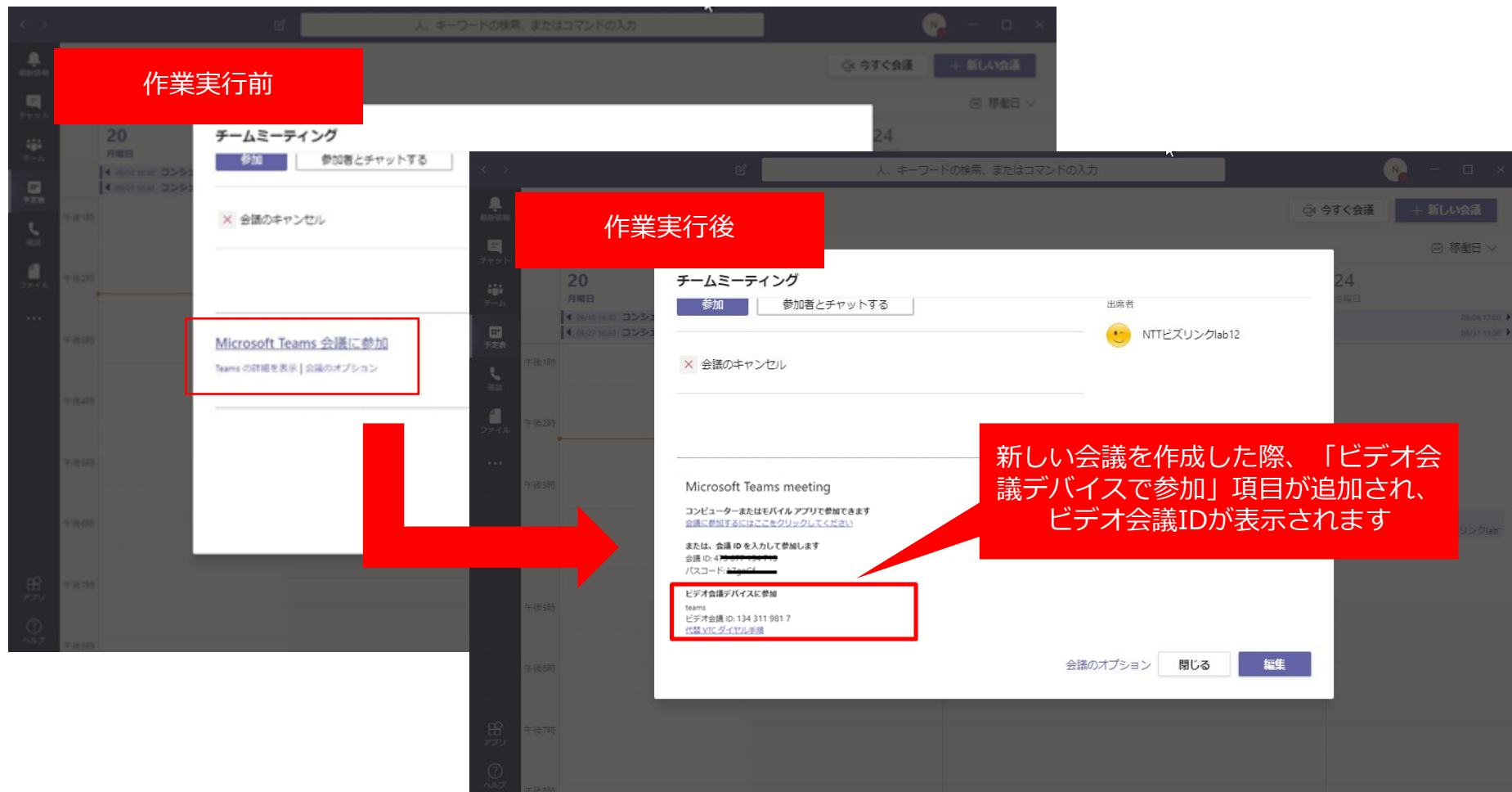
※お客さま環境により、実際の画面遷移・表示と異なる場合があります。

本マニュアルは、Smart C&C サービスのオプションメニューである「Web会議接続(M)」をご利用いただくにあたり、Smart C&Cサービスからお客様のMicrosoft Teamsの会議室へ直接接続することを許可するための設定方法について説明いたします。

- 一部設定にはパワーシェルを使用します(予め必要なモジュールをインストールする必要があります。モジュールのインストール方法については本マニュアルにて説明いたします。)
- Office 365テナントの全体管理者権限を持ったアカウントが必要となります。
- 「Web接続接続(M)」をご利用いただくには、外部アクセスで「biz4f.com」とのアクセスを許可していただく必要があります。
- Microsoft Teamsの「外部アクセス」は、既定ではすべての外部ドメインと通信できます。お客様が許可ドメインを追加していない場合、「biz4f.com」とも通信できるため、外部アクセスの設定追加は不要となります。(その他の設定は必要です。)
- メーカーの仕様変更により、本マニュアルは予告なく改定する場合があります。
- 本資料にてお客様接続設定完了後、弊社にて引き続き構築を進めるにあたり、お客様のTeamsにて動作確認用の会議作成をお願いいたします。
※ SmartからTeamsへ正常に接続可能かを確認する際、お客様まで作成した会議に記載されているビデオ会議IDが必要となります。(動作確認の際、弊社から接続をさせていただく場合があります)

はじめに

- Teams接続設定を実施することにより、Microsoft Teamsで「新しい会議」を作成すると、「ビデオ会議デバイスで参加」という項目が追加され、SMART CCからの接続に使用するビデオ会議IDが表示されるようになります。
- 「ビデオ会議デバイスで参加」は**全てのMicrosoft Teams会議で表示**されます(SMART CCとの接続を行う会議のみに表示させることはできません)。
- Teams接続に必要な作業実行後、ビデオ会議IDが表示されるまで**最大6時間を要する**場合があります



お客さまでご用意頂きたい内容

項目名	詳細
インターネットへ接続可能なPC (Windows 10推奨) (64ビットのオペレーティングシステムが必要)	ブラウザでのログイン、ソフトウェアのインストールおよびPowerShellでのコマンド操作が必要となります ※ プロキシ等のパスワード認証でインターネットへアクセスしている場合、PowerShellでのコマンドが一部使用できないため、認証不要でインターネットへアクセス可能な環境をご用意いただく必要があります
Microsoft 管理権限アカウント	各設定を実施する際に、管理権限アカウントで随時ログインしていただく必要があります
お客さまご利用のOffice 365テナント名 (例) abc.com	Smart C&C サービスとの接続許可設定の際、お客さまご利用のOffice 365テナント名を入力いただく必要があります

弊社から事前にご案内する情報

項目名	詳細
Office 365設定用URL	Office 365設定を実施するのに必要なURLとなります ※事前に「 https://~.azurewebsites.net/ 」でご案内しております(「~」はお客さま毎に異なります)
Teams Connector用バッチファイル (弊社からはzip圧縮ファイルでご提供)	Smart C&C サービスとの接続許可設定を行うために必要な自動化ツール(バッチファイル)となります Zip圧縮ファイルを解凍して、デスクトップへ移動した後に実行していただく必要があります



本作業実施後、弊社宛に送付いただきたい情報

※下記の情報を頂かないと開通・サービス提供が出来ません

項目名	詳細
Office 365設定完了時に表示される 下記2項目 <ul style="list-style-type: none"> ・テナント情報(Tenant) ・アプリケーションID(Application ID) 	Office 365設定完了時に表示されるテナント情報、アプリケーションIDを画面キャプチャしていただき、弊社宛に送付していただく必要があります (頂いた情報を基に、SMART C&CサービスとTeamsの接続が可能となるよう設定いたします) (設定には情報を頂いてから、5営業日ほど時間をいただきます)
お客さまTeamsで作成いただいた、 動作確認用会議のビデオ会議ID (9桁~12桁のビデオ会議ID)	お客さま設定完了後、弊社にて引き続き構築を進めるにあたり、お客さまTeamsで作成していただいた、動作確認用会議のビデオ会議IDを送付していただく必要があります (こちらのビデオ会議IDを使ってSmartからTeamsへの接続が正常に行われるかの確認を行います)

作業完了までの流れ

- Office 365設定用URLにアクセス



- Microsoftログイン画面から管理者権限でログイン



- アクセス許可を承認



- 承認後に表示されるテナント情報とアプリケーションIDの画面をキャプチャし保存

Office 365設定手順

- Microsoft Office 365管理センターにアクセス



- Microsoftログイン画面から管理者権限でログイン



- Teamsの外部アクセス画面から「biz4f.com」を許可ドメインとして追加し保存

お客さまが許可ドメインを追加していない場合は、設定不要

外部ドメイン許可設定

- Microsoft Teamsモジュールのインストール状況の確認（未インストールの場合、インストール作業を実施）



- Microsoftログイン画面から管理者権限でログイン



- PowerShellからSmart C&C サービスとの接続を許可するコマンドを実行



- PowerShellから適用を確認

バージョンによって
マニュアルが異なります。

Smart C&C サービス
との接続許可設定

- ビズリンク構築時、動作確認用会議をお客さまTeamsにて作成



- 会議作成後、本文にビデオ会議IDが記載されていることを確認

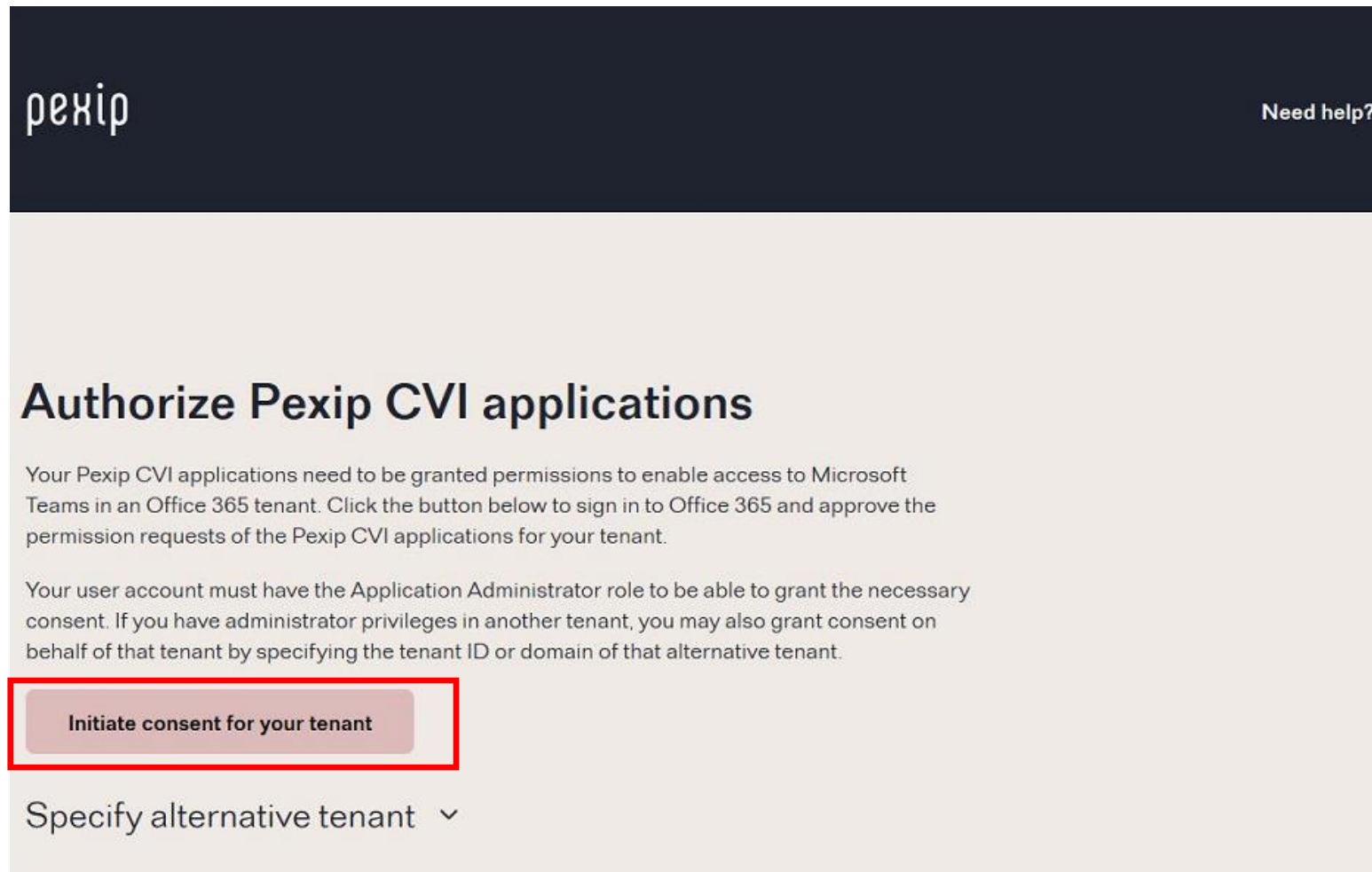
ビデオ会議IDが記載されない場合、翌営業日に再度会議を作成して頂き、ビデオ会議IDを弊社宛に（Teams接続設定完了後、ビデオ会議IDが記載されるまでに最大6時間を要する場合があります）

動作確認用会議の作成

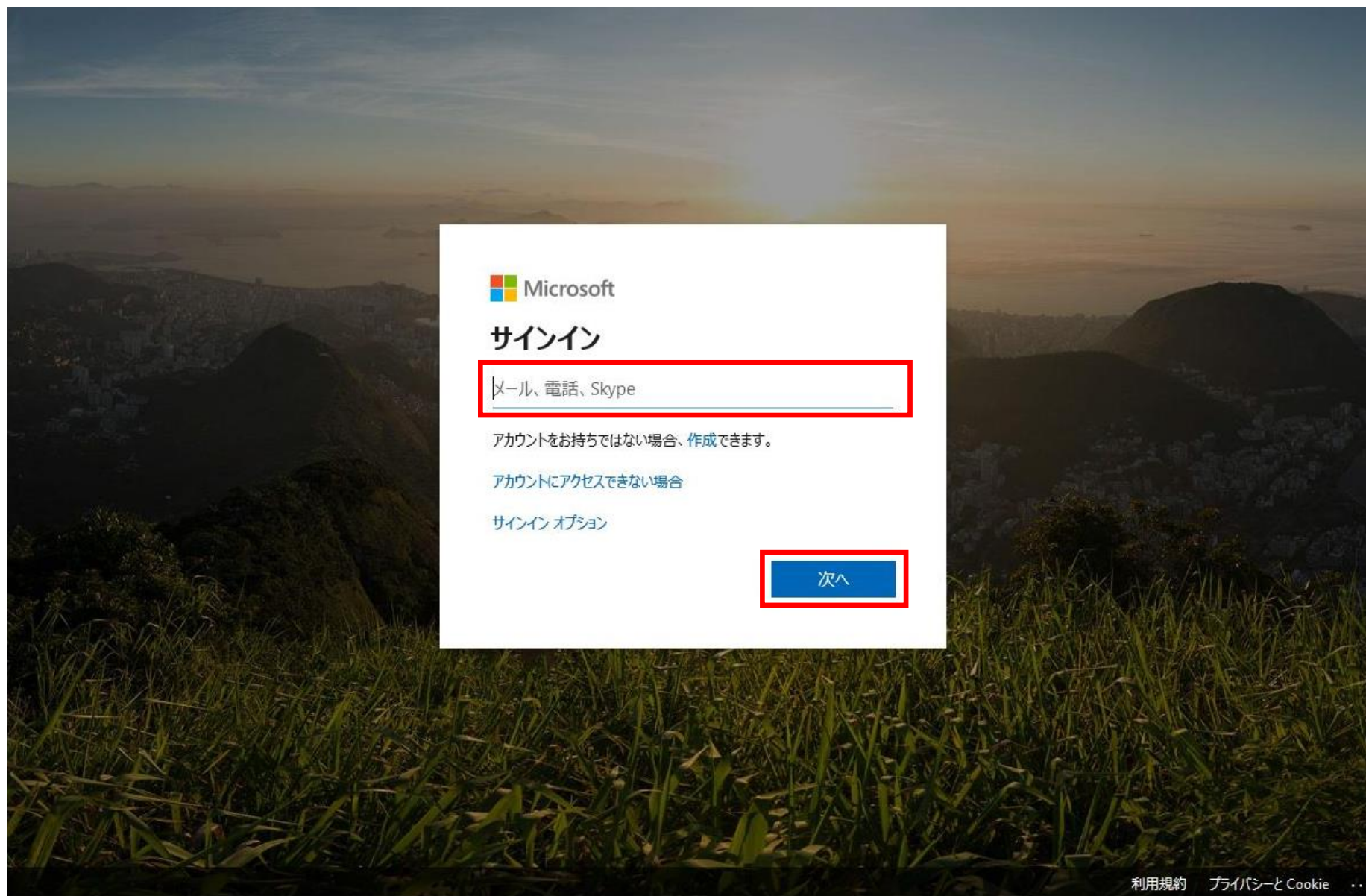
- 作業完了後、Office 365設定手順で保存した画面キャプチャ、および動作確認用会議のビデオ会議IDを弊社宛に送付

Office 365設定手順

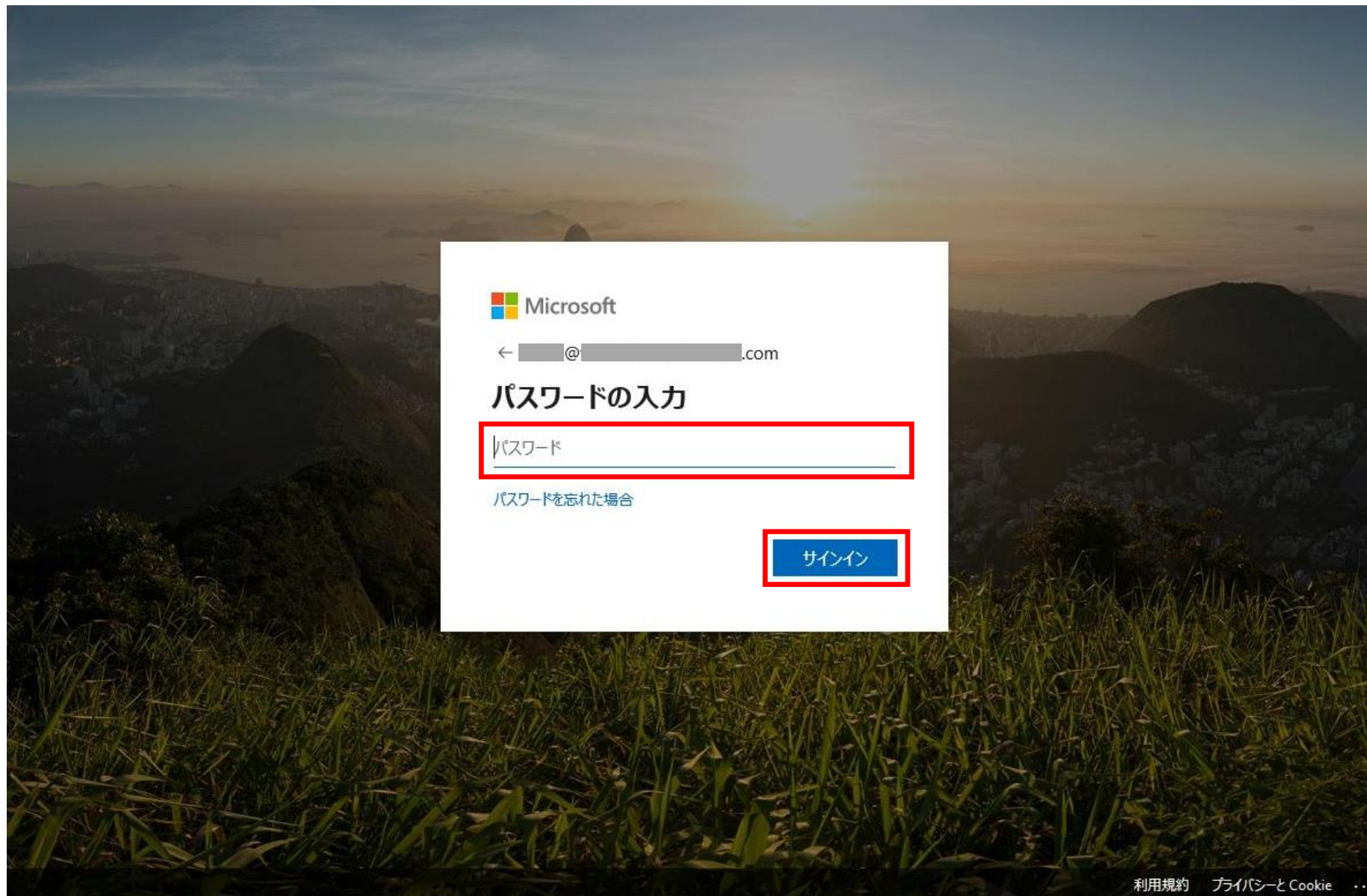
- ① 弊社からお送りする「Office 365設定用URL」にブラウザでアクセスして下さい。
 - ② 以下の画面が表示されますので、「Initiate the consent for your tenant」ボタンを押して下さい。
- ※ 下図のページが表示されない場合、プロキシまたはファイアウォールで「Office 365設定用URL」に記載されているURL (<https://~.azurewebsites.net/>)をブロックしていないかご確認ください。



- ③ サインイン画面が表示されます。管理者権限をもったアカウントを入力し、「次へ」を押します。



- ④ パスワードを入力し、「サインイン」を押します。



⑤ 下記の確認画面が表示されます。「承認(ACCEPT)」ボタンを押します。

※ お客さまのご利用環境によっては別の言語(英語等)で表示される場合があります。

Microsoft

<サインインしたアカウント名>

**要求されているアクセス許可
組織として承認する**

未確認

このアプリケーションは、Microsoft またはお客様の組織によって公開されたものではありません。

このアプリに必要なアクセス許可:

- ✓ Initiate outgoing 1 to 1 calls from the app
- ✓ Initiate outgoing group calls from the app
- ✓ Join group calls and meetings as an app
- ✓ Join group calls and meetings as a guest
- ✓ Access media streams in a call as an app
- ✓ Read online meeting details
- ✓ Read and create online meetings
- ✓ Read all users' full profiles
- ✓ Sign in and read user profile

同意すると、このアプリは組織内のすべてのユーザーの指定のリソースにアクセスできるようになります。これらのアクセス許可の確認を求めるメッセージは、他のユーザーには表示されません。

これらのアクセス許可を受け入れることは、サービス利用規約とプライバシーに関する声明で指定されているとおりこのアプリがデータを使用することを許可することを意味します。確認を行うための利用規約へのリンクが発行元によって提供されていません。これらのアクセス許可は <https://myapps.microsoft.com> で変更できます。詳細の表示

キャンセル **承諾**

弊社で事前にTeams接続用に構築した
ホスト名が表示されます。
※未確認のままでも問題ありません。

Teams接続の利用に必要なアクセス許可の内容
が表示されます。
(記載内容は「Teams会議への発信許可」、
「会議の詳細情報の閲覧許可」等となります。)

- ⑥ 下記の画面が表示されれば設定完了です。
- ⑦ 画面に表示されているIDを、弊社クラウドサービス設備にて設定する必要があるため、
下記の画面キャプチャデータを弊社までお送り下さい。

] pexip [Need help?

Administrator consent was successfully granted

Tenant: [REDACTED]

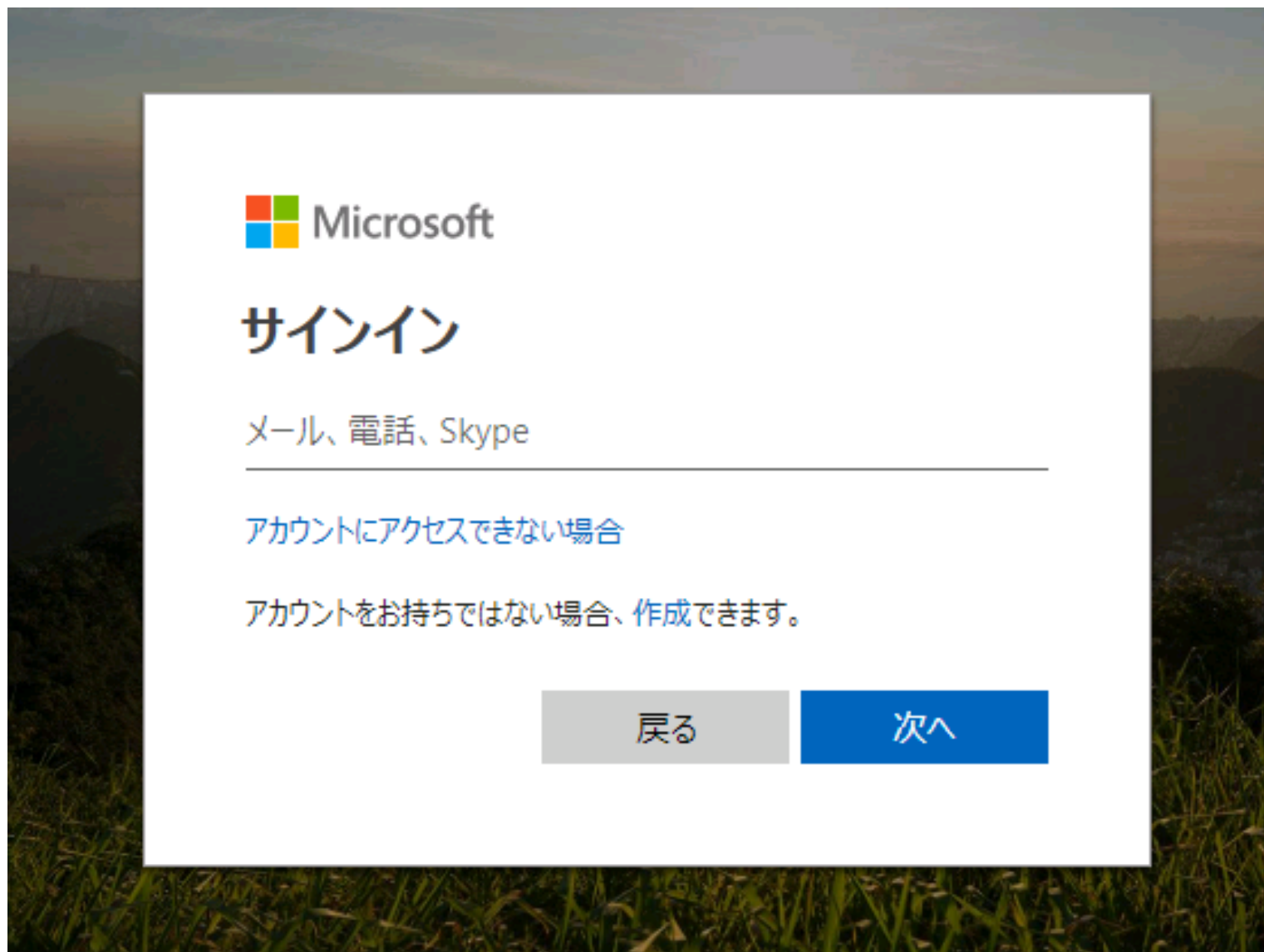
Application ID: [REDACTED]

こちらに記載されている「Tenant」「Application ID」が必要となります

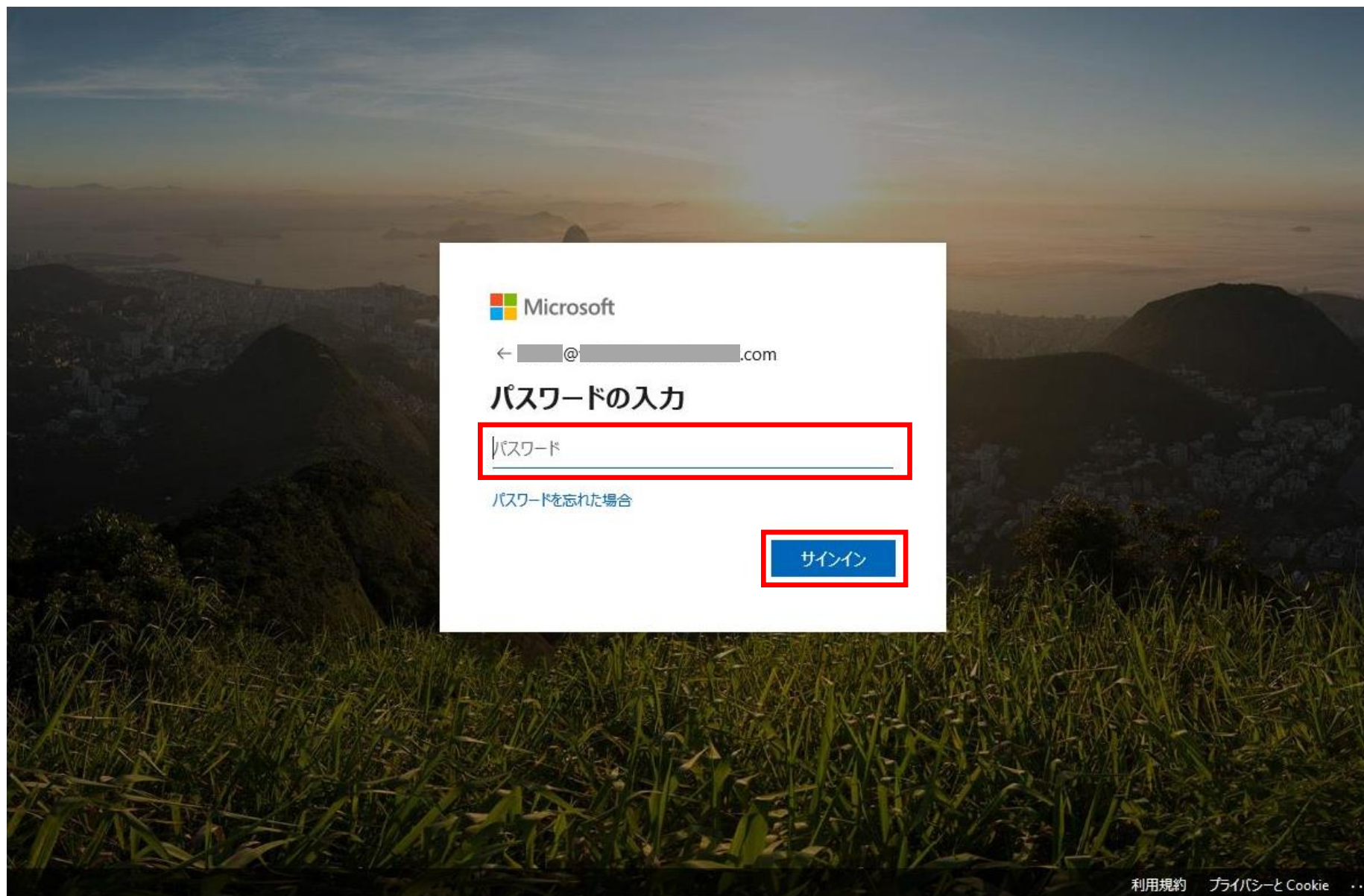
You can now close this window and complete your Pexip installation. See the [Pexip documentation](#) for details.

外部ドメイン許可設定

- ① ブラウザーを起動し、https://login.microsoftonline.com にアクセスする。
- ② サインイン画面が表示されます。管理者権限をもったアカウントを入力し、「次へ」を押します。



③ パスワードを入力し、「サインイン」を押します。



外部ドメイン許可設定

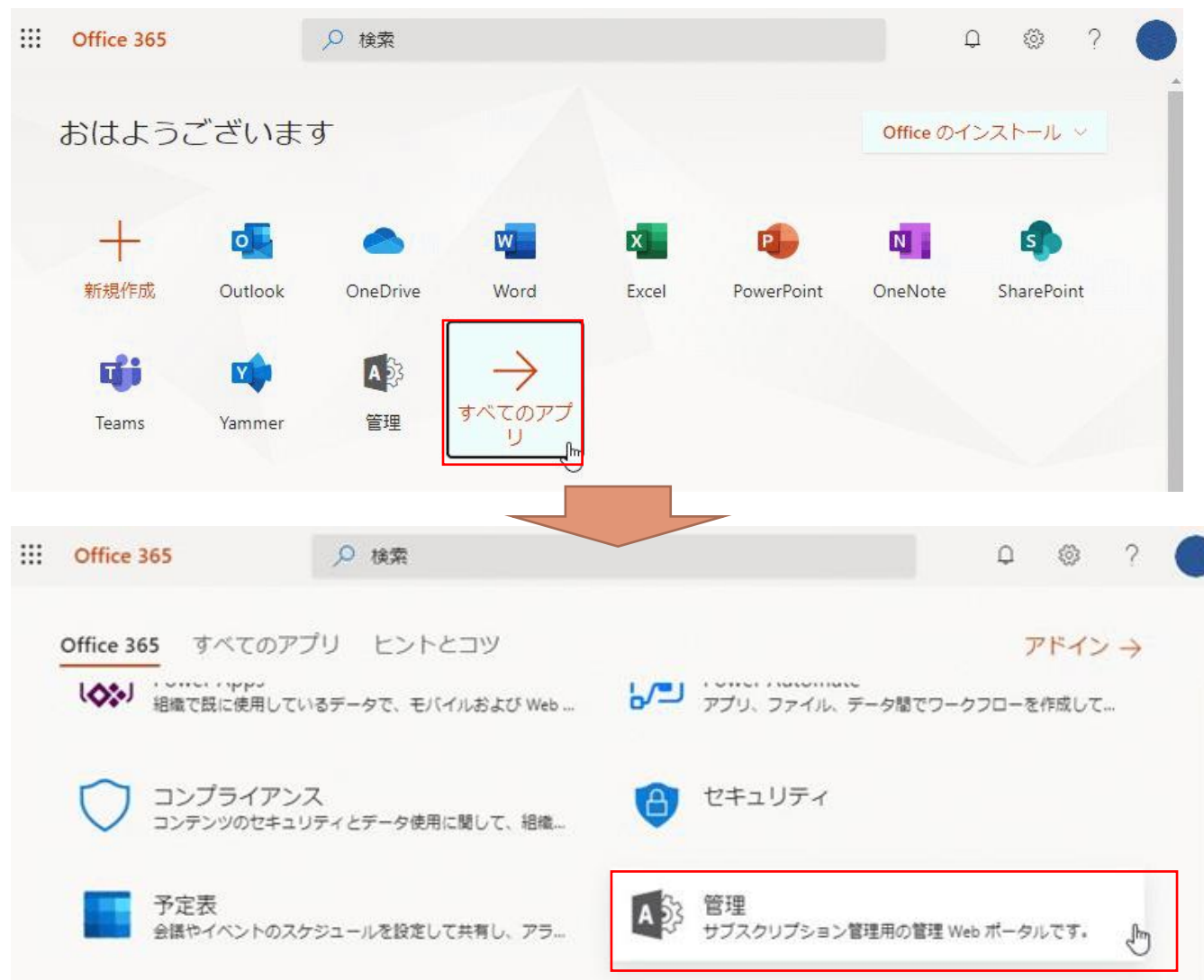
④ アプリの一覧から「管理」を押します。



外部ドメイン許可設定

アプリの一覧に「管理」が見当たらない場合、「すべてのアプリ」から「管理」を押します。

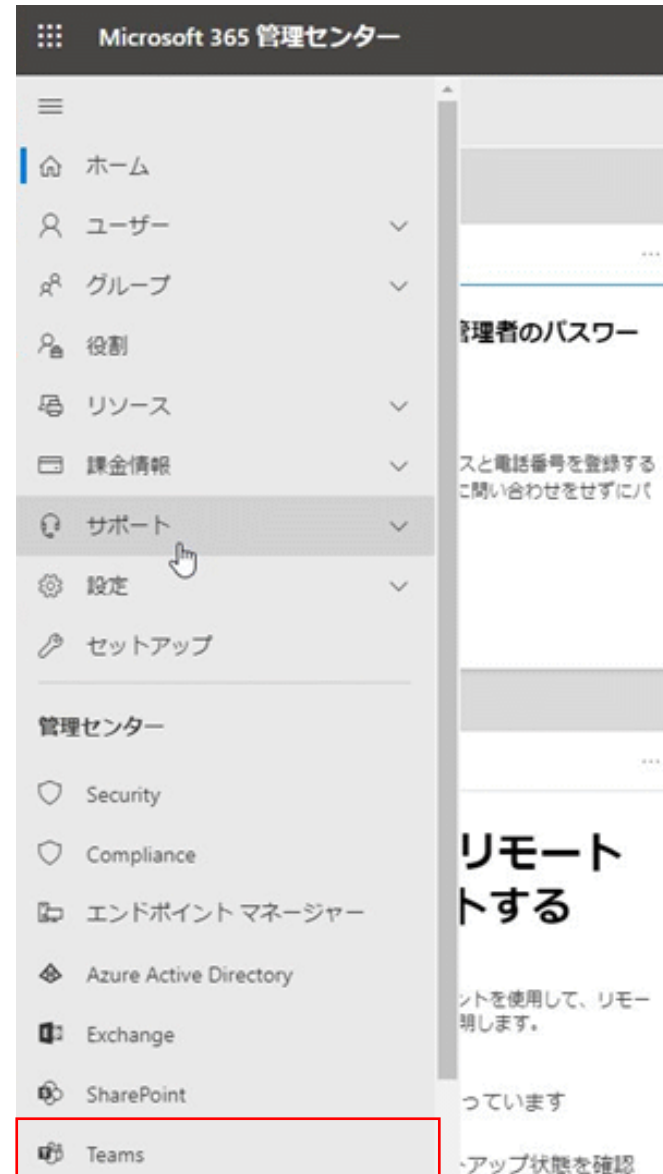
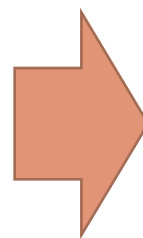
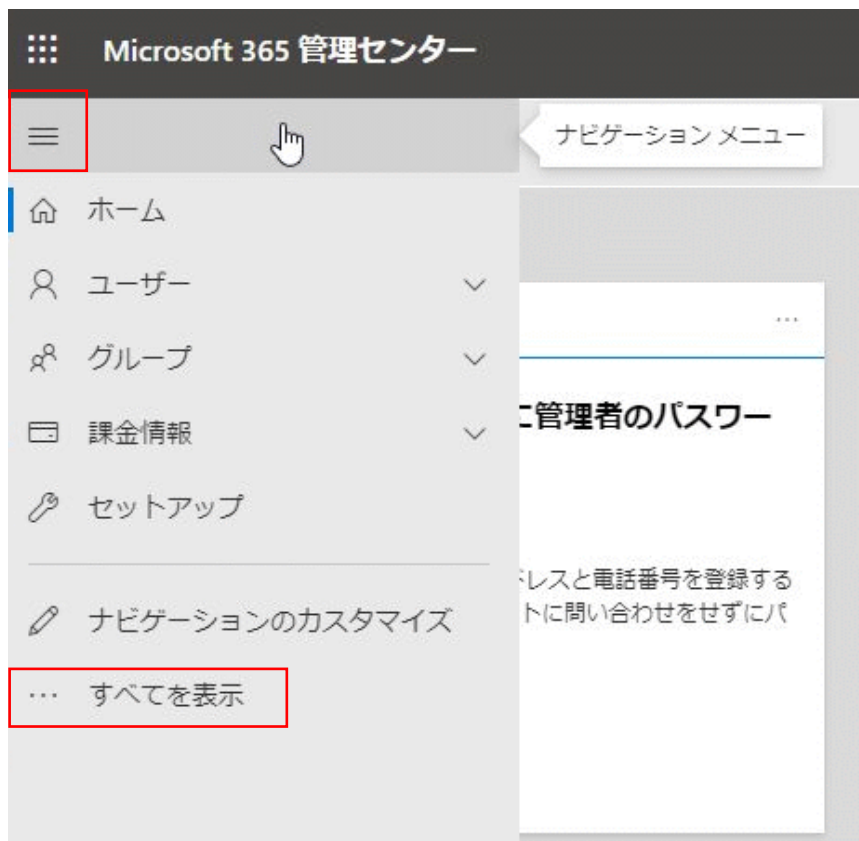
※ すべてのアプリに見当たらない場合、**管理者権限**をもったアカウントでログインしているかをご確認ください。



外部ドメイン許可設定

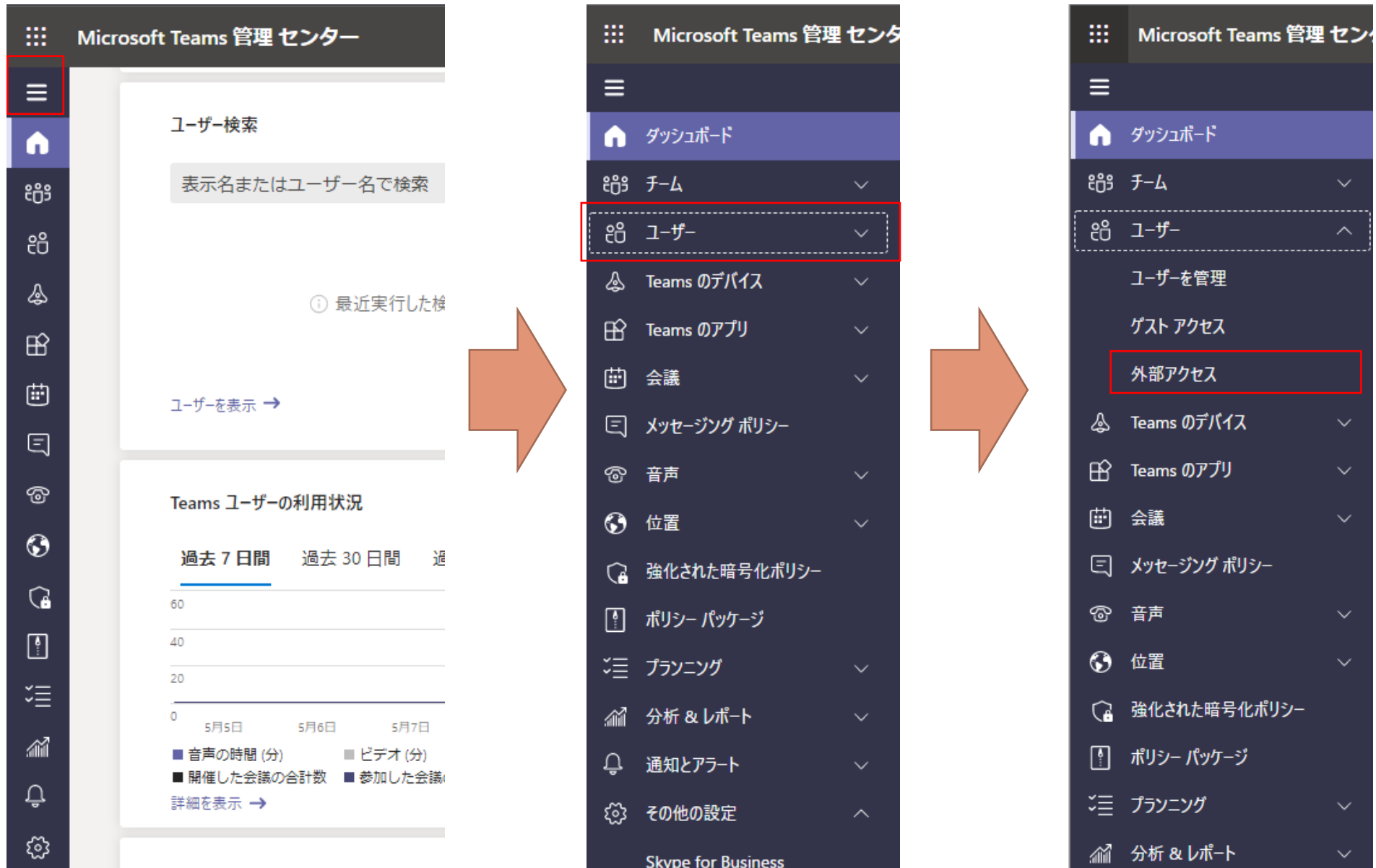
⑤ 【Microsoft 365 管理センター】のナビゲーションメニューから、「Teams」を押します。

※ メニューにない場合、「すべてを表示」を押してすべての項目を表示します。



外部ドメイン許可設定

⑥ ナビゲーションメニューから、「ユーザー」 → 「外部アクセス」を押します。



- ⑦ 「ユーザーがアクセスできる外部ドメインを選択します」項目を確認します。
- ・ 外部ドメインをすべて許可する の場合、外部ドメイン許可設定は不要となります。
(追加ドメイン「biz4f.com」が許可された状態のため)
 - ・ 特定の外部ドメインのみを許可する の場合、次ページより設定が必要となります。
(追加ドメイン「biz4f.com」が許可されていないため、追加が必要)
 - ・ 特定の外部ドメインのみをブロックする の場合、外部ドメイン許可設定は不要となります。
(追加ドメイン「biz4f.com」がブロック対象として登録されていないため)
 - ・ 外部ドメインをすべてブロックする の場合、下図のプルダウンメニューから
 特定の外部ドメインのみを許可する を選択した後、次ページより設定が必要となります。
(追加ドメイン「biz4f.com」のみ許可をする設定となります。)

ユーザーがアクセスできる外部ドメインを選択します:

外部ドメインをすべてブロックする

外部ドメインをすべて許可する

内部ユーザーは、任意の外部ドメインのユーザーと通信できます。

特定の外部ドメインのみを許可する

許可されている外部ドメインの一覧を作成します。ほかのすべてのドメインはブロックされます。

特定の外部ドメインのみをブロックする

ブロックされている外部ドメインの一覧を作成します。ほかのすべてのドメインは許可されます。

外部ドメインをすべてブロックする

内部ユーザーは、どの外部ドメインのユーザーとも通信できません。

「外部ドメインをすべてブロックする」をクリックして頂き、プルダウンメニューから「特定の外部ドメインのみを許可する」をクリックします。

特定の外部ドメインのみを許可する

設定が「特定の外部ドメインのみを許可する」に変更されます。

Add external domains which you want to allow.

Allow domains

外部ドメイン許可設定

- ※ 「ユーザーがアクセスできる外部ドメインを選択します」項目の設定が「 特定の外部ドメインのみを許可する」の場合、本設定が必要となります。
- ⑧ 「+ ドメインを追加」をクリックします。
(許可されたドメインがない場合、「Allows domains」をクリックします。)

外部組織の Teams および Skype for Business ユーザー

外部ドメインが許可されている場合、組織内のユーザーはチャット、会議へのユ-定では、組織はすべての外部ドメインと通信できます。詳細情報

ユーザーがアクセスできる外部ドメインを選択します:

特定の外部ドメインのみを許可する

+ ドメインを追加 × 削除 | 1項目

✓	許可されたドメイン
	nttbiz.com

許可されたドメインがない場合

ユーザーがアクセスできる外部ドメインを選択します:

特定の外部ドメインのみを許可する

Add external domains which you want to allow.

外部ドメイン許可設定

- ⑨ ドメインに「biz4f.com」と入力し、「完了」を押します。

外部ドメインの追加

You can add external domains you want to allow. [Learn more.](#)

ドメイン

 *

完了 キャンセル

- ⑩ ドメイン一覧にbiz4f.comが許可状態で追加されているのを確認し、「保存」を押します。
※「保存」ボタンは画面をスクロールすることで表示されます。

✓ 新しいドメイン **biz4f.com** が許可状態としてリストに追加されました。

外部組織の Teams および Skype for Business ユーザー

外部ドメインが許可されている場合、組織内のユーザーはチャット、会議へのユーザーの追加、外部組織のユーザーとの音声ビデオ会議を使用できます。既定では、組織はすべての外部ドメインと通信できます。[詳細情報](#)

ユーザーがアクセスできる外部ドメインを選択します:

✓ 特定の外部ドメインのみを許可する

+ ドメインを追加 × 削除 | 2項目

✓ 許可されたドメイン

nttbiz.com

biz4f.com

biz4f.comが許可ドメインとして追加されている
※ この場合、nttbiz.comとbiz4f.com以外からのドメインが禁止される形となります。

保存

破棄

⑪ 設定が保存され、画面上部のメッセージ表示を確認します。

※ 設定が反映されるまでに数時間かかる場合があります。（お客さまご利用状況によります。）

✔ 設定が保存されました。変更が反映されるまでに数時間かかる場合があります。

外部組織の Teams および Skype for Business ユーザー

外部ドメインが許可されている場合、組織内のユーザーはチャット、会議へのユーザーの追加、外部組織のユーザーとの音声ビデオ会議を使用できます。既定では、組織はすべての外部ドメインと通信できます。[詳細情報](#)

ユーザーがアクセスできる外部ドメインを選択します:

✔ 特定の外部ドメインのみを許可する

+ ドメインを追加 × 削除 | 2項目

✔ 許可されたドメイン

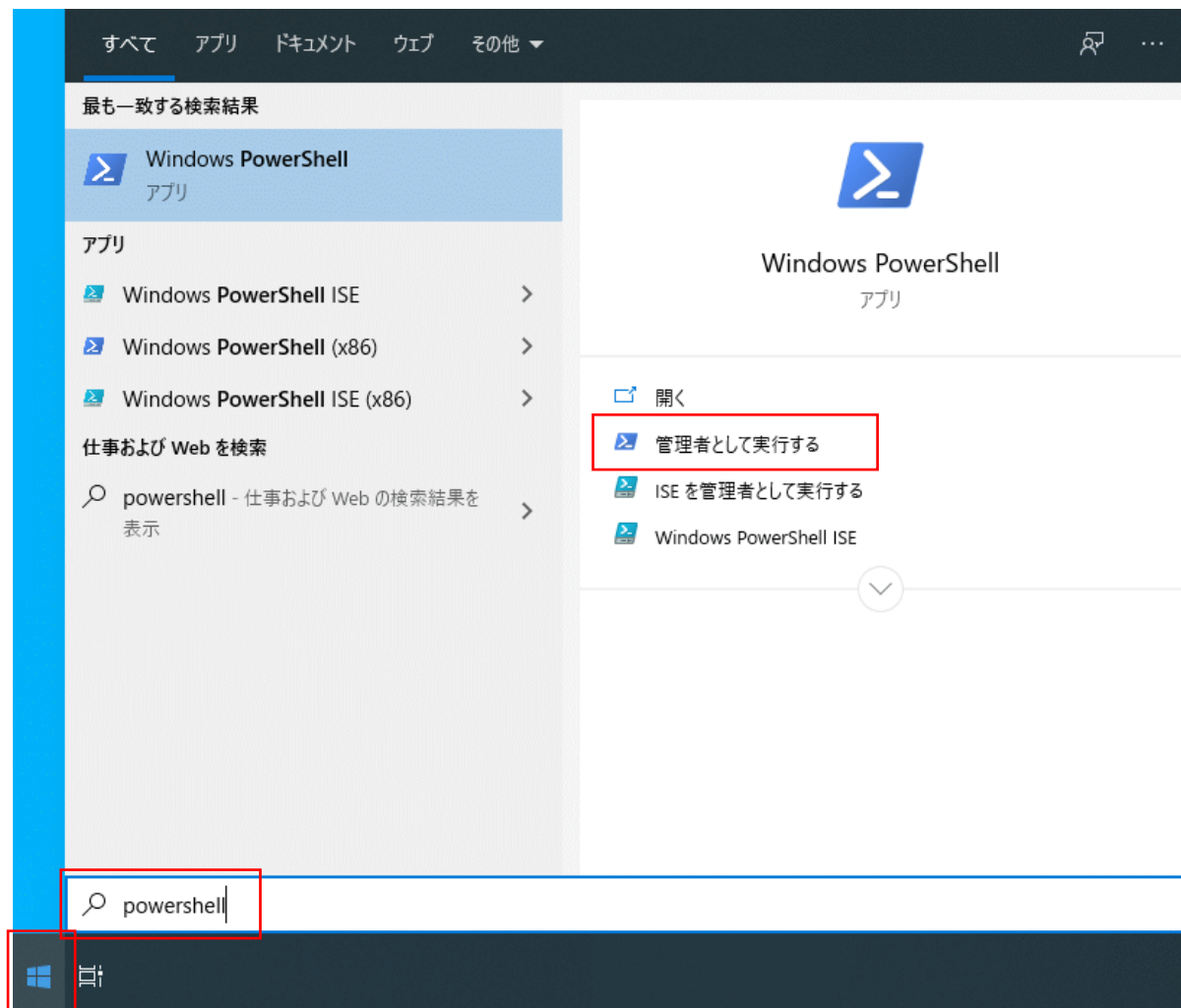
bizppf.net

biz4f.com

Smart C&C サービスとの接続許可設定

必要なモジュールのインストール状況の確認

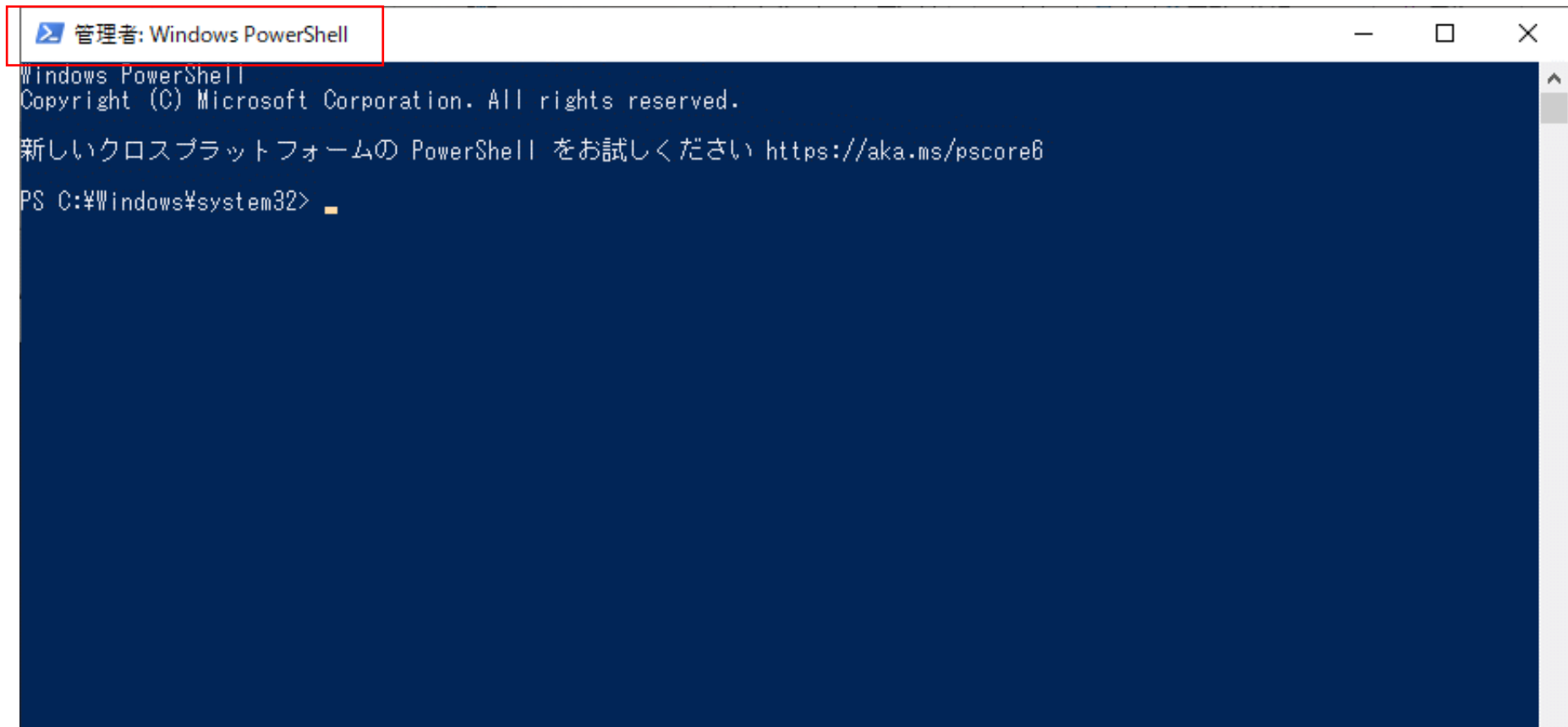
- ① Windowsのスタートボタンを押して、「powershell」と入力します（自動で検索画面に移行）
- ② Windows PowerShellアプリが自動で選択されるので、「管理者として実行する」を押します



必要なモジュールのインストール状況の確認

③ 起動したWindows PowerShellのタイトルバーが「管理者: Windows PowerShell」と表示しているのを確認します。

※ 管理者の記載がない場合、一旦ウィンドウを閉じて再度管理者としての実行を行います。



必要なモジュールのインストール状況の確認

④ 必要なモジュールのインストール状況を確認するため、PowerShell上で下記のコマンドを実行します。

1) Get-InstalledModule -Name "MicrosoftTeams"

→ 表示されたメッセージによって、対応が異なります。（下記表を参照）

パターン1	<p>MicrosoftTeamsモジュールが未インストール状態（検索しても見つからない状態） → 次のページの「MicrosoftTeamsモジュールのインストール」へ進みます</p> <pre>PS C:\WINDOWS\system32> Get-InstalledModule -Name "MicrosoftTeams" PackageManagement\Get-Package : 指定された検索条件とモジュール名 'MicrosoftTeams' に一致するものが見つかりませんでした。 発生場所 C:\Program Files\WindowsPowerShell\Modules\PowerShellGet\1.0.0.1\PSModule.psm1:2253 文字:9 + ~~~~~ + CategoryInfo : ObjectNotFound: (Microsoft.Power...lets.GetPackage:GetPackage) [Get-Package], Exception + FullyQualifiedErrorId : NoMatchFound,Microsoft.PowerShell.PackageManagement.Cmdlets.GetPackage</pre>
パターン2	<p>MicrosoftTeamsモジュールのバージョンが2.0.0以上の場合 → 「Smart C&C サービスとの接続許可設定（モジュールバージョン2.0.0以上の場合）」へ進みます ※ 本マニュアルが別バージョンの場合、該当バージョンのマニュアルを確認します</p> <pre>PS C:\WINDOWS\system32> Get-InstalledModule -Name "MicrosoftTeams" Version Name Repository Description ----- 2.0.0 MicrosoftTeams PSGallery Microsoft Teams</pre> <p>MicrosoftTeamsモジュールのバージョン2.0.0がインストール済み</p>
パターン3	<p>MicrosoftTeamsモジュールのバージョンが1.1.6以下の場合 → 「Smart C&C サービスとの接続許可設定（モジュールバージョン1.1.6以下の場合）」へ進みます ※ 本マニュアルが別バージョンの場合、該当バージョンのマニュアルを確認します</p> <pre>PS C:\WINDOWS\system32> Get-InstalledModule -Name "MicrosoftTeams" Version Name Repository Description ----- 1.1.6 MicrosoftTeams PSGallery Microsoft Teams</pre> <p>MicrosoftTeamsモジュールのバージョン1.1.6がインストール済み</p>

パターン1

①必要なモジュールのインストールを行うため、PowerShell上で下記のコマンドを実行します。

1) Install-Module MicrosoftTeams -MinimumVersion "2.0.0" -AllowClobber

実行後、画面上部に「Installing package 'MicrosoftTeams」と表示されインストールが実行中となります。

```
管理: Windows PowerShell
Windows PowerShell
Copyright (C) Microsoft Corporation. All rights reserved.

Installing package 'MicrosoftTeams'
Downloaded 3.19 MB out of 5.27 MB.
[ooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooo ]
```



→ 実行後、入力画面（下図の場合、PS C:¥Windows¥system32>）が表示されます。

```
管理: Windows PowerShell
Windows PowerShell
Copyright (C) Microsoft Corporation. All rights reserved.

新しいクロスプラットフォームの PowerShell をお試しください https://aka.ms/pscore6

PS C:¥WINDOWS¥system32> Install-Module MicrosoftTeams -MinimumVersion "2.0.0" -AllowClobber
PS C:¥WINDOWS¥system32> █
```

2) MicrosoftTeamsモジュールのインストールが完了となります。

→ 「Smart C&C サービスとの接続許可設定（モジュールバージョン2.0.0以上の場合）」へ進みます。

パターン2

※ 本マニュアルが別バージョンの場合、該当バージョンのマニュアルを確認します。

パターン1

①

※ 1) Install-Module MicrosoftTeams -MinimumVersion "2.0.0" -AllowClobber
で**プロバイダーのインストールメッセージが表示される場合**

→ MicrosoftTeamsモジュールのインストールに必要となるため、「Y」を入力します。

```
続行するには NuGet プロバイダーが必要です  
PowerShellGet で NuGet ベースのリポジトリを操作するには、'2.8.5.201' 以降のバージョンの NuGet  
プロバイダーが必要です。NuGet プロバイダーは 'C:\Program Files\PackageManagement\ProviderAssemblies' または  
'C:\Users\Administrator\AppData\Local\PackageManagement\ProviderAssemblies'  
に配置する必要があります。'Install-PackageProvider -Name NuGet -MinimumVersion 2.8.5.201 -Force' を実行して NuGet  
プロバイダーをインストールすることもできます。今すぐ PowerShellGet で NuGet  
プロバイダーをインストールしてインポートしますか?  
[Y] はい(Y) [N] いいえ(N) [S] 中断(S) [?] ヘルプ (既定値は "Y"):
```

※ 1) Install-Module MicrosoftTeams -MinimumVersion "2.0.0" -AllowClobber
で**モジュールのインストール許可メッセージが表示される場合**

→ MicrosoftTeamsモジュールをインストールするため、「Y」を入力します。

```
信頼されていないリポジトリ  
信頼されていないリポジトリからモジュールをインストールしようとしています。このリポジトリを信頼する場合は、Set-PSReposit  
ory コマンドレットを実行して、リポジトリの InstallationPolicy の値を変更してください。'PSGallery'  
からモジュールをインストールしますか?  
[Y] はい(Y) [A] すべて続行(A) [N] いいえ(N) [L] すべて無視(L) [S] 中断(S) [?] ヘルプ (既定値は "N"):
```

② PowerShellでexitコマンドを入力し作業を終了します。(PowerShellウィンドウが閉じます。)

```
PS C:\Windows\system32>  
PS C:\Windows\system32> exit
```

Smart C&C サービスとの接続許可設定 (モジュールバージョン2.0.0以下の場合)

パターン2

① 必要なモジュールのインポートを行うため、PowerShell上で下記のコマンドを順番に実行します

1) Import-Module MicrosoftTeams

→ 実行後、入力画面（下図の場合、PS C:¥Windows¥system32>）が表示されます

```
PS C:¥WINDOWS¥system32> Import-Module MicrosoftTeams
PS C:¥WINDOWS¥system32>
```

2) Connect-MicrosoftTeams

→ 実行後、サインイン画面が表示されます

```
PS C:¥WINDOWS¥system32> Connect-MicrosoftTeams
```

3) 2)実行後、Microsoftのサインイン画面が表示するので、**管理者権限**をもったアカウントでサインインします
※ SMART C&Cと接続するお客さまご利用テナントの**管理者権限**をもったアカウントが該当します



4) サインイン完了後、下図のように各パラメータが表示され入力画面（下図の場合、PS C:¥Windows¥system32>）が表示されます

```
PS C:¥WINDOWS¥system32> Connect-MicrosoftTeams

Account                               Environment Tenant                               Tenant Id
-----                               -
xxx01@xxxxx.onmicrosoft.com          AzureCloud 12345678-90ab-cdef-1234-1234567890ab 12345678-90ab-cdef-1234-1234567890ab

PS C:¥WINDOWS¥system32>
```

Smart C&C サービスとの接続許可設定 (モジュールバージョン2.0.0以下の場合)

パターン2

①

※ 2) Connect-MicrosoftTeams

で**エラーが表示される場合**

→ プロキシ経由等でインターネットへアクセスする際、認証が失敗したためエラーが表示されます

認証不要でインターネットへアクセス可能なNW環境で実行する必要があります

(再実行の際は、エラー表示されたPowerShell画面を閉じて、⑦のWindowsのスタートボタンから再開します)

```
PS C:\WINDOWS\system32> Connect-MicrosoftTeams
Get-CsOnlinePowerShellEndpoint : リモート サーバーがエラーを返しました: (407) プロキシ認証が必要です
発生場所 C:\Program Files\Common Files\Skype for Business Online\Modules\SkypeOnlineConnector\SkypeOnlineConnectorStart
up.ps1:149 文字:26
+ ... targetUri = Get-CsOnlinePowerShellEndpoint -TargetDomain $adminDomain ...
+
+ CategoryInfo          : NotSpecified: (:) [Get-CsOnlinePowerShellEndpoint], WebException
+ FullyQualifiedErrorId : System.Net.WebException,Microsoft.Rtc.Management.OnlineConnector.GetPowerShellEndpointCm
dlet
```


Smart C&C サービスとの接続許可設定 (モジュールバージョン2.0.0以下の場合)

パターン2

② Smart C&C サービスとの接続を許可するため、PowerShell上で下記のコマンドを順番に実行します

1) `New-CsVideoInteropServiceProvider -Name Pexip -TenantKey "<address>" -InstructionUri "<link>" -AllowAppGuestJoinsAsAuthenticated $true -AadApplicationIds "<App ID>"`

※ 「`New-CsVideoInteropServiceProvider ~ "<App ID>"`」までが1つのコマンドとなります

※ `<address>`、`<link>`、`<App ID>`は弊社から事前にご案内している各変数情報に変更して実行します

※ メモ帳等のテキストエディタに上記コマンドをコピーし、各変数情報を変更後、再コピーを行いPowerShellへ貼り付け(Ctrl + V)後に実行いただくとスムーズに対応可能です

→ 実行後、下図のように各パラメータが表示されます

```
PS C:\WINDOWS\system32> New-CsVideoInteropServiceProvider -Name Pexip -TenantKey "teams" -InstructionUri  
"" -AllowAppGuestJoinsAsAuthenticated $true -AadApplicationIds "12345678-90ab-cdef-1234-1234567890ab"  
  
Identity           : Pexip  
Name                : Pexip  
AadApplicationIds  : 12345678-90ab-cdef-1234-1234567890ab  
TenantKey          : teams  
InstructionUri      :  
AllowAppGuestJoinsAsAuthenticated : True  
  
PS C:\WINDOWS\system32>
```

Smart C&C サービスとの接続許可設定 (モジュールバージョン2.0.0以下の場合)

パターン2

②

2) Get-CsTeamsVideoInteropServicePolicy

→ 実行後、下図のように各パラメータが表示されます(接続を許可するコマンド実行前のパラメータ状況の確認)

```
PS C:\Windows\system32> Get-CsTeamsVideoInteropServicePolicy

Identity      : Global
Description   :
ProviderName  : DefaultProvider
Enabled       : False

Identity      : Tag:PolycomServiceProviderEnabled
Description   :
ProviderName  : Polycom
Enabled       : True

Identity      : Tag:BlueJeansServiceProviderEnabled
Description   :
ProviderName  : BlueJeans
Enabled       : True

Identity      : Tag:PexipServiceProviderEnabled
Description   :
ProviderName  : Pexip
Enabled       : True

Identity      : Tag:ServiceProviderDisabled
Description   :
ProviderName  : DefaultProvider
Enabled       : False

Identity      : Tag:CiscoServiceProviderEnabled
Description   :
ProviderName  : Cisco
Enabled       : True

PS C:\Windows\system32>
```

3) Grant-CsTeamsVideoInteropServicePolicy -PolicyName PexipServiceProviderEnabled -Global

→ 実行後、入力画面(下図の場合、PS C:\Windows\system32>)が表示されます

```
PS C:\Windows\system32> Grant-CsTeamsVideoInteropServicePolicy -PolicyName PexipServiceProviderEnabled -Global
PS C:\Windows\system32>
```

Smart C&C サービスとの接続許可設定 (モジュールバージョン2.0.0以下の場合)

パターン2

③ 実行したコマンドの適応状況を、PowerShell上で下記のコマンドを実行します

1) Get-CsTeamsVideoInteropServicePolicy

→ Identity : Global 項目が下図(右側)の内容に変更されているのを確認します

① 3)のコマンド実行前

```
PS C:\Windows\system32> Get-CsTeamsVideoInteropServicePolicy

Identity      : Global
Description   :
ProviderName  : DefaultProvider
Enabled       : False

Identity      : Tag:PolycomServiceProviderEnabled
Description   :
ProviderName  : Polycom
Enabled       : True

Identity      : Tag:BlueJeansServiceProviderEnabled
Description   :
ProviderName  : BlueJeans
Enabled       : True

Identity      : Tag:PexipServiceProviderEnabled
Description   :
ProviderName  : Pexip
Enabled       : True

Identity      : Tag:ServiceProviderDisabled
Description   :
ProviderName  : DefaultProvider
Enabled       : False

Identity      : Tag:CiscoServiceProviderEnabled
Description   :
ProviderName  : Cisco
Enabled       : True

PS C:\Windows\system32>
```

① 3)のコマンド実行後

```
PS C:\Windows\system32> Get-CsTeamsVideoInteropServicePolicy

Identity      : Global
Description   :
ProviderName  : Pexip
Enabled       : True

Identity      : Tag:PolycomServiceProviderEnabled
Description   :
ProviderName  : Polycom
Enabled       : True

Identity      : Tag:BlueJeansServiceProviderEnabled
Description   :
ProviderName  : BlueJeans
Enabled       : True

Identity      : Tag:PexipServiceProviderEnabled
Description   :
ProviderName  : Pexip
Enabled       : True

Identity      : Tag:ServiceProviderDisabled
Description   :
ProviderName  : DefaultProvider
Enabled       : False

Identity      : Tag:CiscoServiceProviderEnabled
Description   :
ProviderName  : Cisco
Enabled       : True

PS C:\Windows\system32>
```

Identity : Global 項目のうち
ProviderName と Enable の変更を確認します

ProviderName : DefaultProvider → Pexip
Enable : False → True

Smart C&C サービスとの接続許可設定 (モジュールバージョン2.0.0以下の場合)

パターン2

④ 現在接続しているセッションを切断するため、下記のコマンドを実行します

1) Disconnect-MicrosoftTeams

→ 実行後、入力画面（下図の場合、PS C:¥Windows¥system32>）が表示されます

```
PS C:¥WINDOWS¥system32> Disconnect-MicrosoftTeams  
PS C:¥WINDOWS¥system32>
```

⑤ PowerShellでexitコマンドを入力し作業を終了します(PowerShellウィンドウが閉じます)

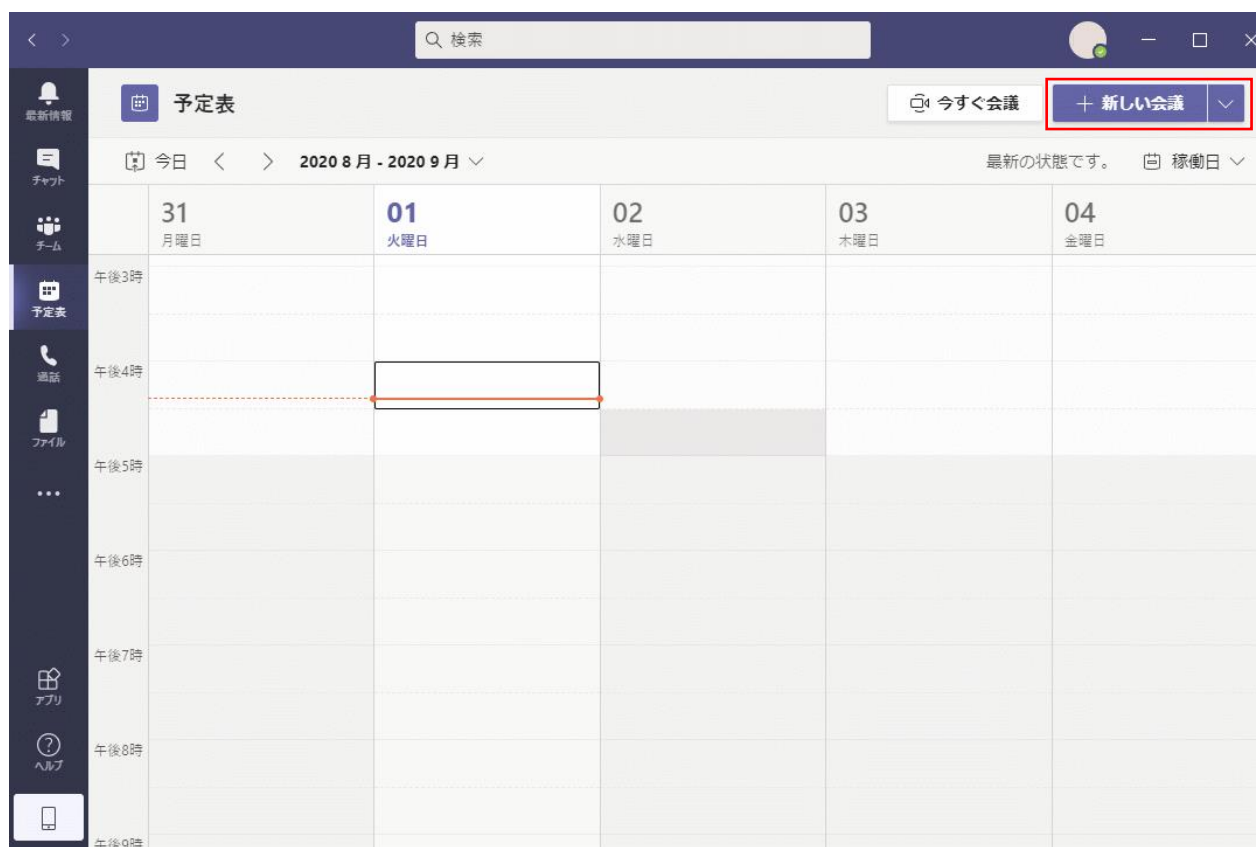
```
PS C:¥WINDOWS¥system32>  
PS C:¥WINDOWS¥system32> exit
```

動作確認用会議の作成

動作確認用会議の作成

※ SmartからTeamsへ正常に接続可能かを確認する際、本手順で作成した会議に対して、弊社から接続を実施する場合があります。

- ① Teamsを起動してログインします。
お客さまのご利用に影響のないアカウントでのログインを推奨します。
(弊社から接続を実施するため)
- ② ログイン後、予定表内にある「新しい会議」をクリックします。



動作確認用会議の作成

- ③ 新しい会議を予約し、保存をクリックします。
(お客さまご利用のTeamsバージョンにより画面表示が異なる可能性があります。)

The screenshot shows the '新しい会議' (New Meeting) form in Teams. At the top right, there are '保存' (Save) and '閉じる' (Close) buttons, with a red circle '5' around the '保存' button. The form fields include: a title field with '動作試験用会議' and a red circle '1'; a required attendees field with '〇〇@nttbiz.com' and a red circle '2'; a date and time field with '2020/09/01' and '9:00' and a red circle '3'; a duration field with '2020/09/08', '19:00', '7日 10時間', and a '終日' (All-day) toggle; a '繰り返しなし' (No recurrence) dropdown; 'チャンネルを追加' (Add channel) and '場所を追加' (Add location) buttons; and a rich text editor with a red circle '4' at the bottom. The text in the editor is 'この新しい会議の詳細を入力します'.

- ① **タイトル名**
動作試験用会議のタイトル名を入力します。
(タイトル名に指定はありません)
- ② **必須出席者**
お客さまご利用メールアドレスまたはアカウントを登録します。
(ユーザーが追加されないと、ビデオ会議IDが払い出されません。)
- ③ **日付**
5営業日を目安に会議時間を設定します。
(今後の弊社構築作業に5営業日を要するため)
- ④ **本文**
空白で問題ありません。
- ⑤ ①～④の入力完了後、保存をクリックします。

動作確認用会議の作成

- ④ 作成した会議をクリックします。
※ 長期間の会議は予定の上部へ表示されます。

The screenshot shows a calendar interface with the following elements:

- Header: 予定表 (Calendar), 今すぐ会議 (Meetings Now), 新しい会議 (New Meeting)
- Navigation: 今日 (Today), 2020 8月 - 2020 9月 (2020 August - 2020 September), 稼働日 (Working Day)
- Calendar Grid: Columns for 31 (月曜日), 01 (火曜日), 02 (水曜日), 03 (木曜日), 04 (金曜日). Rows for times from 午前8時 to 午後2時.
- Meeting Entry: A meeting titled "9:00 動作試験用会議 NTTビズリンクlab14" is scheduled for 09/08 at 19:00. This entry is highlighted with a red border.

動作確認用会議の作成

- ⑤ 本文に記載されたビデオ会議IDを弊社までお送りください。
(9桁~12桁のビデオ会議IDとなります)
※ 下図の場合、ビデオ会議IDは「1343119817」が該当します。

動作試験用会議 チャット ファイル 詳細 スケジュール アシスタント その他 2

更新内容を送信 閉じる

会議の取り消し タイムゾーン: (UTC+09:00) 大阪、札幌、東京 会議のオプション

動作試験用会議

○○@nttbiz.com + 任意

2020/09/01 9:00

2020/09/08 19:00 7日 10時間 終日

繰り返しなし

場所を追加

Microsoft Teams meeting

コンピューターまたはモバイル アプリで参加できます
会議に参加するにはここをクリックしてください

または、会議 ID を入力して参加します
会議 ID: 134 311 981 7
パスコード: 134 311 981 7

ビデオ会議デバイスに参加
teams
ビデオ会議 ID: 134 311 981 7

ビデオ会議IDが表示されない場合

- ・ 必須出席者が空欄である
→ 必須出席者にお客さまご利用メールアドレスまたはアカウントを追加し更新した後、ビデオ会議IDが記載されているかを確認します
- ・ Teams接続設定の反映に時間がかかっている
→ Teams接続設定完了後、ビデオ会議IDが記載されるまでに最大6時間を要する可能性があるため、翌営業日など時間を置いて会議の再作成を行い確認します

動作確認用会議の作成

弊社から該当の会議へ動作試験として接続を実施した際、下図のメッセージが表示されますがそのまま静観頂いて問題ありません。

※ 本メッセージが出ている場合、SMARTからTeamsへの接続が行われていることを示しています。



